

## News Release

# 武州正藍染の魅力を次代に継承すべく、現代の暮らしに適した 日本らしいワークウェアの開発と資金調達に挑戦 渋沢栄一翁のふるさと埼玉から、士魂商才の精神を全国に

藍のふるさと埼玉県羽生市に本社を置く野川染織工業株式会社（創業：1914年）の跡継ぎとなる五代目・野川雄気（31）は、長年培った剣道着製造技術の強みを最大限に活かし、丈夫で長持ち、抗菌・防臭効果を持つ武州正藍染の伝統を現代の暮らしに活かせる、新しいスタイルの日本のワークウェア“作務衣”の商品開発と資金調達に挑戦します。

かつて武州（ぶしゅう）とよばれた埼玉県羽生市は、江戸時代から続く武州正藍染の産地。埼玉県深谷市出身の実業家・渋沢栄一の家業の藍玉づくりはこの地場産業の核となる事業でした。

かつてこの地域には最盛期、約300軒の紺屋がありましたが、武州の伝統を現在に残すのは市内わずか4社のみとなりました。激しい稽古にも耐えうる一級品として剣道業界で高く評価され、強さと美しさ、機能美を兼ね備えた武州正藍染の魅力は、広く一般には知られていないというのが現状です。

そこで、このような現状を打破すべく、東京オリンピックのエンブレムや人気漫画『鬼滅の刃』で再評価の高まる市松模様などの伝統的な和の文様を刺子で表現した新素材の作務衣・文様刺し作務衣を開発し、広く全国の方に親しんでもらいたいとの願いを込めて資金調達を行います（詳細は別紙参照）。

折しも埼玉誕生150周年を迎える2021年は、武州の発展に大きく貢献した渋沢栄一翁の功績が全国に知られる好機です。その素晴らしい功績を過去の遺産にするのではなく、現代に息づく伝統産業の明るい未来をめざし、当社の若手が次の百年に向けて、士魂商才の精神で挑みます。

記

■老舗剣道着メーカーが届けたい藍のある暮らし 武州正藍染 文様刺し作務衣

実施サイト : クラウドファンディングサイト「Makuake」

公開ページ : <https://www.makuake.com/project/monyousashi/> (QRコードは右)

実施期間 : 2021年9月2日(木) ~ 11月3日(水) (予定) 目標金額 : 20万円



【問合せ・取材担当】野川染織工業株式会社 製販企画部部长 野川雄気

住所 : 〒348-0033 埼玉県羽生市須影 878

TEL : 048-561-0368 FAX : 048-563-2323 携帯電話 : 080-9577-6982

E-mail : bushu.nogawa.5@gmail.com

公式サイト : <http://www.nogawasenshoku.com/>



Makuake



Bushu Process

# 武州の伝統 天然発酵建て藍 百年の極み 創業大正三年 野川染織工業株式会社

## <武州正藍染について>

かつて武州（ぶしゅう）とよばれた埼玉県羽生市は、江戸時代から続く武州正藍染の産地です。近くを流れる日本三大暴れ川の一つ坂東太郎・利根川の中流域に位置し、洪水や氾濫が多い地域であったことから、豊かな土壌で育つ蓼藍の生育に適しており、藍を中心とした一大産業地域へと発展しました。

同地域の埼玉県深谷市出身の**実業家・渋沢栄一**も藍染めの原料の藍玉づくりを家業とし、その商才を発揮したと言われています。しかし、最盛期は約 300 軒あった糸染めの紺屋も化学染料や外国産に押され、現在は市内にわずか 4 社のみとなりました。古くは農作業着用の生地を生産していましたが、農業の機械化により需要は消滅、活路を剣道衣類用の生地へと変更し、現在同市では、国産剣道衣類・剣道具用生地の約 8 割を製造しています。

埼玉が誇る伝統産業の 1 つとして、その歴史と技術を次世代に繋ぐため、官民一体となって奮闘しています。



## <野川染織工業の挑戦の歴史>

野川染織工業株式会社（本社：埼玉県羽生市 代表取締役：野川雅敏）は、創業大正三年。天然発酵にこだわった藍で糸を染め、織機で生地を織り、裁断・縫製までを自社にて一貫して行う全国でも稀有な会社です。

主力の剣道衣類製造だけでなく、用の美にこだわった一般商品を幅広く展開し、現在は五代目跡継ぎ・野川雄気（31）への事業承継も行いながら、様々な新しい挑戦を続けています。

近年の取組では BEAMS JAPAN とのコラボレーションや渋沢栄一検定公式グッズへの採択、県内高校生の工場見学受入、ヨーロッパ剣道家へのオンライン工場ツアー実施など、業界、世代、国を超えて武州正藍染の歴史と意義を伝え、一人でも多くの人々にその魅力を知ってもらうことで、次の百年後にも地域を支え、従事する若手が誇れる産業であり続けたいと願っています。



## <文様刺し作務衣にこめた想い>

剣道着は身を守る衣類であり、その生地の丈夫さは一般衣料では見られません。また藍は、強さと美しさを際立たせる武士の色であり、誠実で一途な暮らしの色でもあります。私たちは、剣道とは縁の少ない方々にも、武州正藍染が持つ強さ、美しさを体感して欲しいと考え、刺し子織りで和柄文様を表現した”文様刺し(もんようざし)”を開発し、日本のワークウェアである作務衣を作りました。

昔の日本人は、美しいというだけで藍を身に付けていたわけではありません。藍染めには、丈夫さだけでなく、抗菌・防臭など様々な効果があり、洗剤がなかった時代には、藍は強く、美しく、機能的で快適な素材だったのです。現代においても、家の中やアウトドアで身に着けてみると、その丈夫さと温かみを感じることができると思います。

